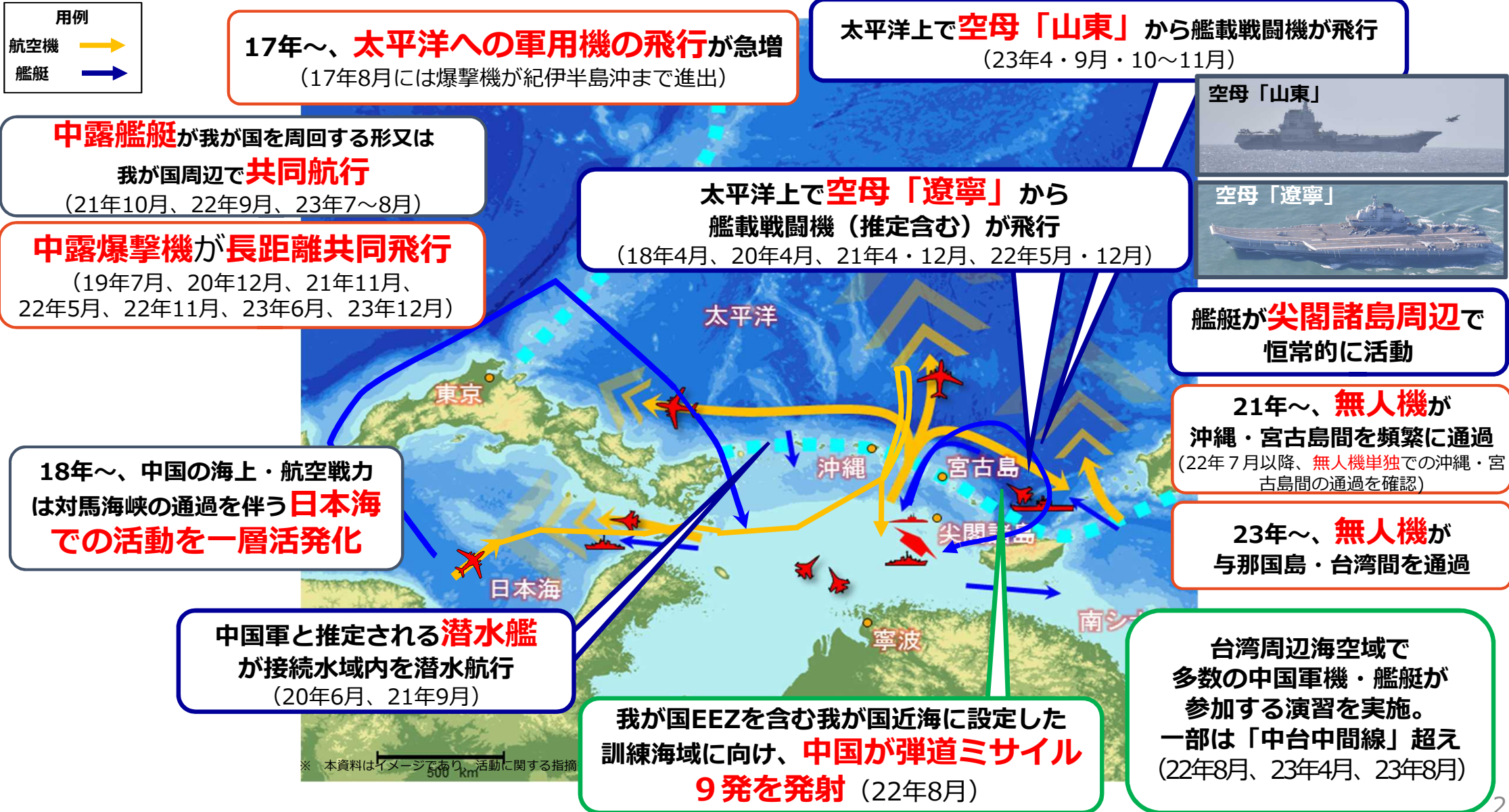


# 中国情勢 (東シナ海・太平洋・日本海)

令和6年3月  
防衛省

# (ダイジェスト) 我が国周辺における中国の海洋活動の例

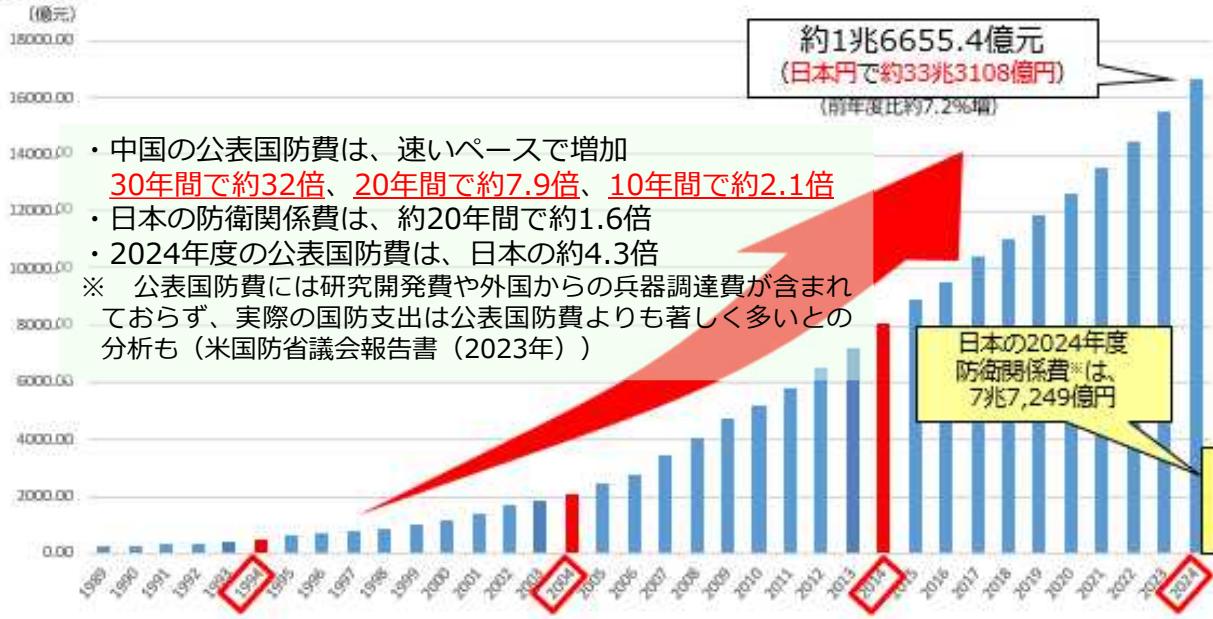
- 中国軍は海空域での活動を急速に拡大・活発化。一方的な活動のエスカレーションも。
- 尖閣諸島周辺のほか、日本海・太平洋における活動の定例化を企図しているとみられる。また、日本海・太平洋における活動は、今後一層の拡大・活発化が見込まれる。



# 軍事力の強化

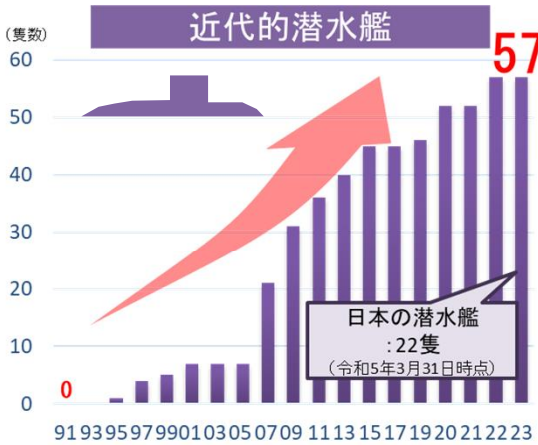
# 中国の軍事力の強化

- 中国は、国防費の高い水準での増加を背景に、海上・航空戦力や核・ミサイル戦力を中心とした軍事力を広範かつ急速に強化
- 公表している国防費は、中国が実際に軍事目的に支出している額の一部（研究開発や外国からの兵器調達などが含まれていない）にすぎないと見られている

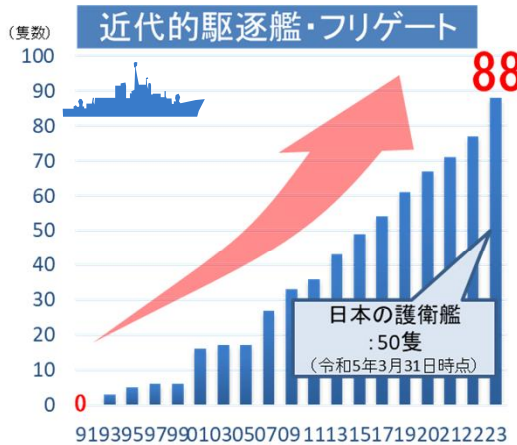


・中国の公表国防費は、速いペースで増加  
**30年間で約32倍、20年間で約7.9倍、10年間で約2.1倍**  
 ・日本の防衛関係費は、約20年間で約1.6倍  
 ・2024年度の公表国防費は、日本の約4.3倍  
 ※ 公表国防費には研究開発費や外国からの兵器調達費が含まれておらず、実際の国防支出は公表国防費よりも著しく多いとの分析も（米国防省議会報告書（2023年））

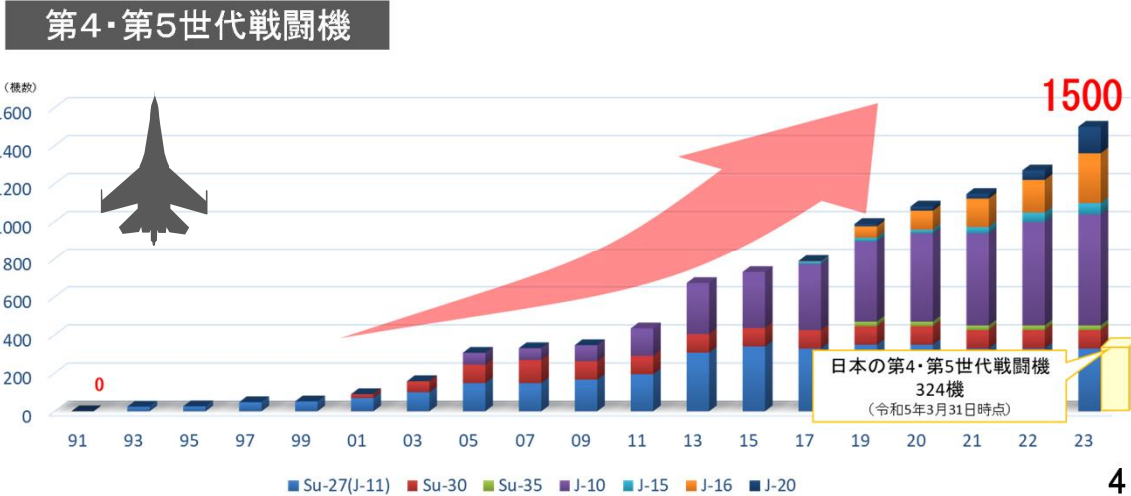
※1 日本の防衛関係費は、SACO関係費、米軍再編関係費のうち地元負担軽減に係る経費等を除いたもの。  
 ※2 1元=20円（令和5年度の出納官吏レート）で換算。前年度比の数値は中国公表値による。



※ ジン・ジャン・ツォン・ユアン級の各級潜水艦の総隻数



※1 レン・ハイ・ル・フルー・ハイ・ツォン・ユアン級の各級駆逐艦及びジャン・ウェイ・ジャン級の各級フリゲートの総隻数  
 ※2 このほか、中国は72隻(22年)のジャン・ダオ級小型フリゲートを保有



東シナ海・太平洋・日本海



# 東シナ海での活動

- 東シナ海においては、中国軍艦艇が継続的かつ活発に活動。尖閣諸島に近い海域で恒常的に活動。
- 中国軍機も、尖閣諸島や沖縄本島をはじめとする、南西諸島により近接した空域で活発に活動。

## 中国軍機の活動

### 【中国軍機の活動】

警戒監視や空中警戒待機（CAP）、訓練と考えられるものや、「東シナ海防空識別区」の運用を企図している可能性があるものも。

### 【無人機の活動】 単独で沖縄本島・宮古島間を通過

- 2022年7月：偵察／攻撃型無人機TB-001
- 2022年8月：TB-001、偵察型無人機BZK-005
- 2023年1月：BZK-005、偵察型無人機WZ-7

## 尖閣諸島周辺での活動

中国軍艦艇は尖閣諸島に近い海域で恒常的に活動。

- (2016年6月) ジャンカイI級フリゲート1隻が接続水域に入域 (戦闘艦艇としては初)
- (2022年7月) ジャンウェイII級フリゲート1隻が接続水域に入域



ジャンウェイII級フリゲート

(2018年1月) 潜水航行をしていた中国軍潜水艦とジャンカイII級フリゲートが尖閣諸島周辺の接続水域内に入域



確認された中国軍潜水艦

(2022年11月) 推定中国無人機1機が、東シナ海から飛来し、尖閣諸島北方において一時南進した後、大陸方面へ飛行

※艦艇・航空機の位置等はイメージ

※「東シナ海防空識別区」は、当該空域を飛行する航空機に対し、中国国防部の定める規則を強制し、これに従わない場合は、中国軍による「防衛的緊急措置」をとることなど、国際法上の基本的な規則である公海における上空飛行の自由の原則を不当に侵害する形で、中国が独自の主張に基づき設定

### 【測量艦の領海内航行】

2021年11月以降、シュパン級測量艦が、屋久島等付近の領海内を繰り返し航行

- ①21年11月 ②22年04月 ③22年07月
- ④22年09月 ⑤22年11月 ⑥22年12月
- ⑦23年02月 ⑧23年06月 ⑨23年09月



シュパン級測量艦

(2020年6月) (2021年9月) 奄美大島周辺の接続水域において推定中国国籍の潜水艦の潜水航行

### 【情報収集艦】

- (2015年11月) ドンディアオ級情報収集艦1隻が尖閣諸島南方の接続水域の外側の海域を往復航行
- (2016年6月) ドンディアオ級情報収集艦1隻が、口永良部島と屋久島付近のわが国領海内を航行した後、北大東島北方の接続水域内を航行し、その後、尖閣諸島南方の接続水域の外側を東西に往復航行



ドンディアオ級情報収集艦

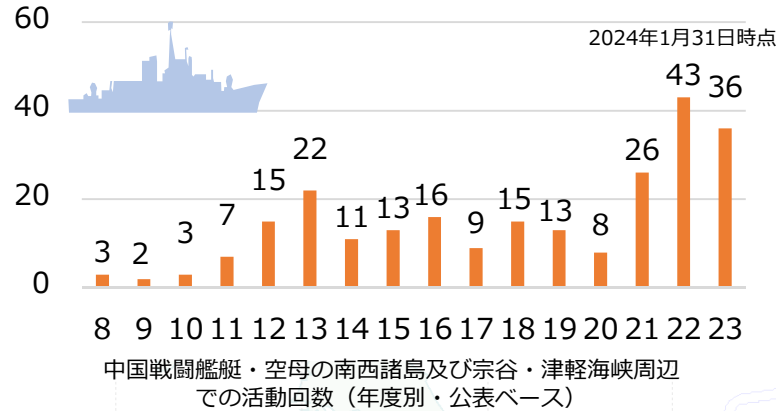
# 太平洋への進出

- わが国近海を航行しての中国海軍の**戦闘艦艇による太平洋への進出**は、**高い頻度で継続**。
- 航空戦力については、**2017年以降、沖縄本島・宮古島間の空域の通過を伴う太平洋進出が一層活発**。同空域を通過する**軍用機**（無人機を含む）の**種類や飛行形態も多様化の傾向**。

## 中国艦艇の太平洋進出

### 【戦闘艦艇】

- 中国海軍艦艇は高い頻度で太平洋へ進出
- 進出経路は多様化
  - ① 宗谷海峡、② 津軽海峡、③ 大隅海峡、④ 奄美大島・横当島間、⑤ 沖縄本島・宮古島間、⑥ 与那国島・西表島間、⑦ 与那国島・台湾間



## 中国軍空母の太平洋進出

### 【空母「遼寧」】

2016年以降、計8度の進出を確認。艦載機等の発着艦を頻繁に確認

- ① 2016年12月
- ② 2018年 4月
- ③ 2019年 6月
- ④ 2020年 4月
- ⑤ 2021年 4月
- ⑥ 2021年12月
- ⑦ 2022年 5月
- ⑧ 2022年12月



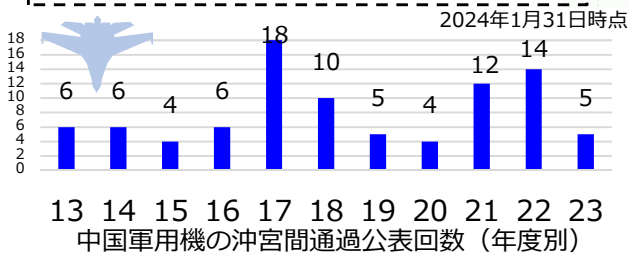
空母「遼寧」

## 中国軍機の太平洋進出

### 【沖縄本島-宮古島間を通過】

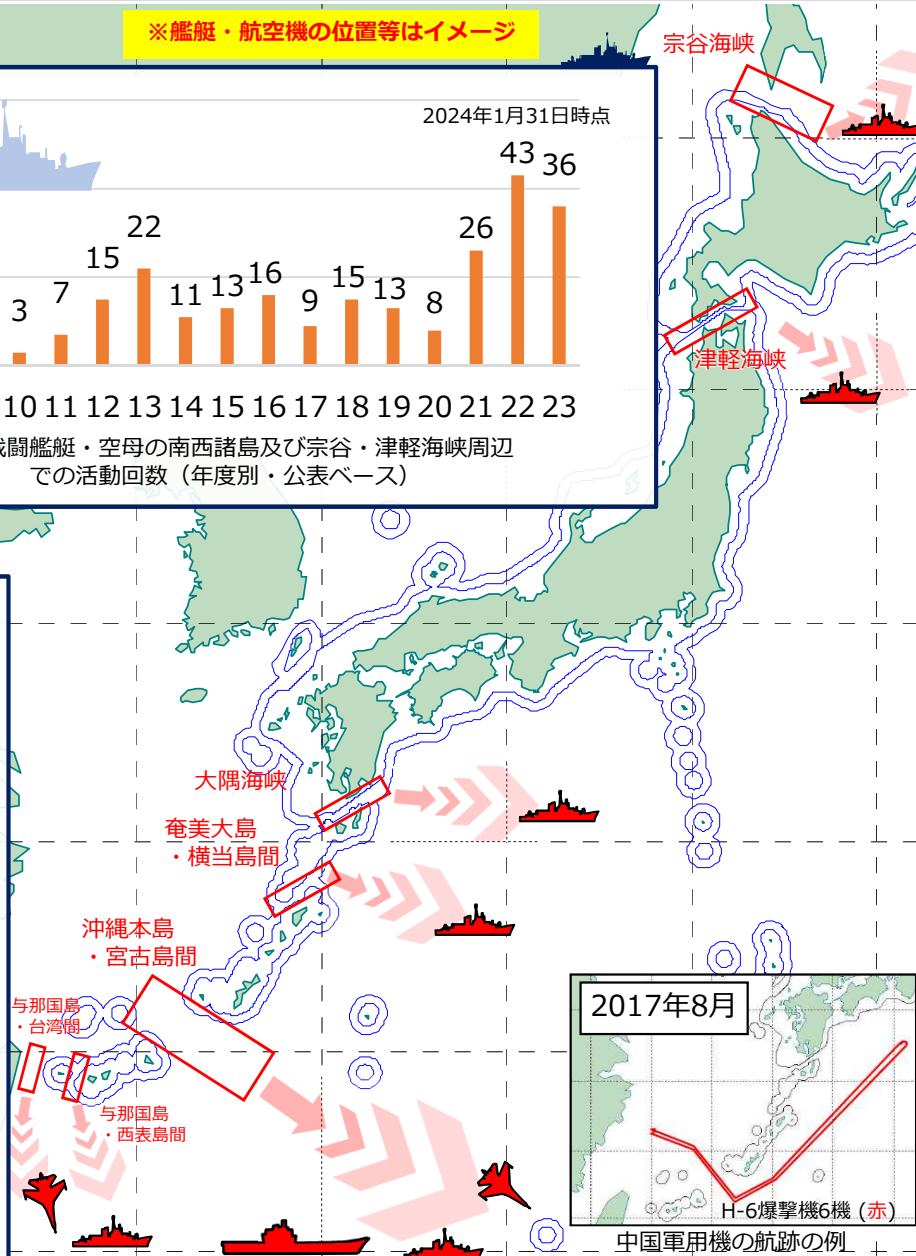
- 機種や飛行経路が多様化

Y-8早期警戒機／情報収集機／電子戦機、  
Y-9情報収集機、 Tu-154情報収集機、  
H-6爆撃機、 Su-30戦闘機、  
TB-001偵察/攻撃型無人機、 BZK-005  
偵察型無人機、 WZ-7偵察型無人機



### 【与那国島-台湾間を通過】

- 23年4月、推定中国無人機の通過を確認（中国軍機の通過は初確認）



### 【空母「山東」】

2023年以降、計3度の進出を確認。いずれも艦載機の発着艦を確認。

- ① 2023年 4月
- ② 2023年 9月
- ③ 2023年10月

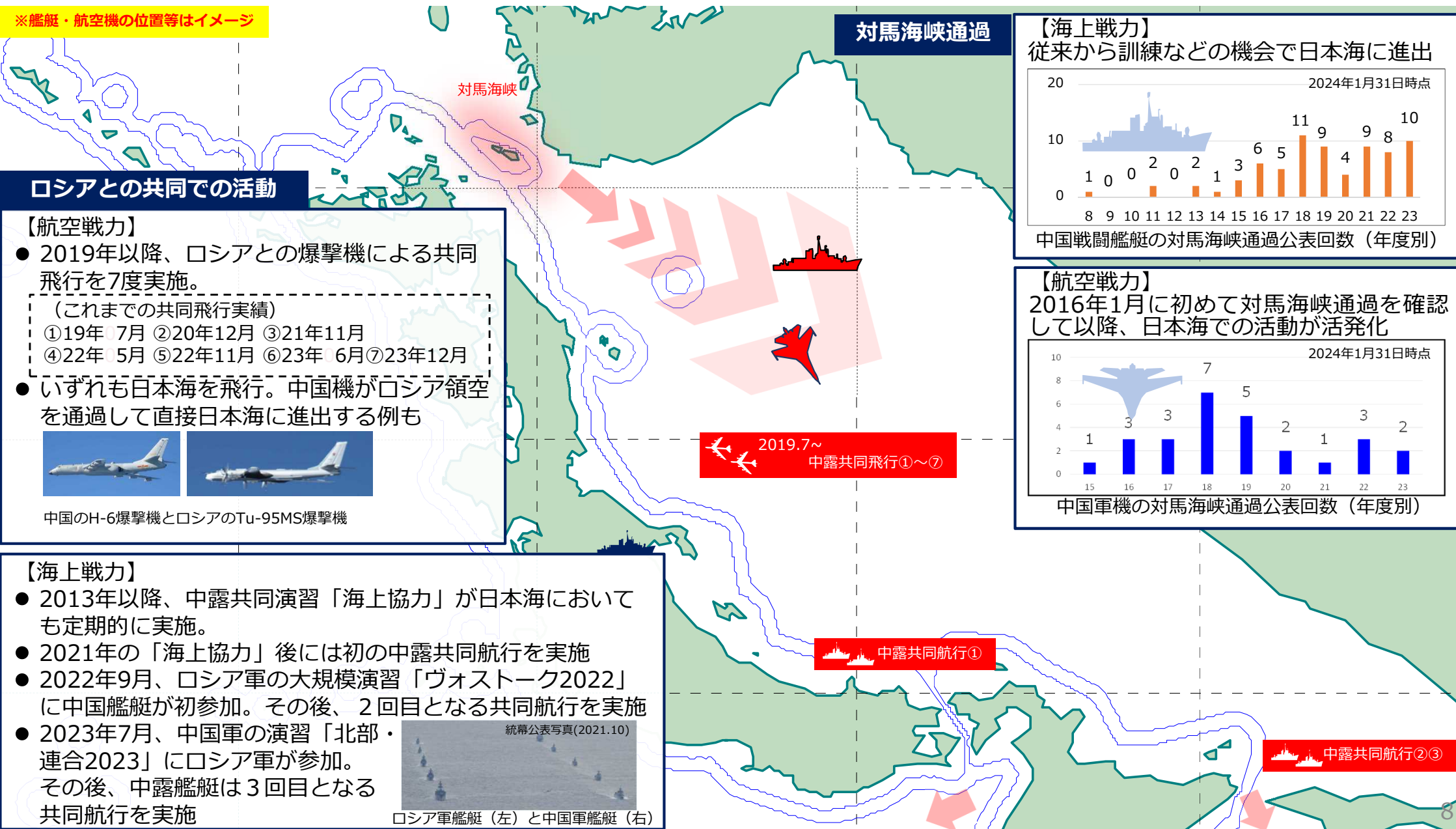


空母「山東」

# 日本海での活動

- 日本海においては、**ロシア軍との共同での活動を含め、海上戦力・航空戦力の活動が活発化**。
- 海上戦力は、従来から訓練などの機会<sup>①</sup>で日本海に進出。情報収集艦による対馬海峡の通過も頻繁に確認。
- 航空戦力は、2016年1月に中国軍機の対馬海峡通過を初めて確認して以降、日本海での活動が活発化。

※艦艇・航空機の位置等はイメージ



## ロシアとの共同での活動

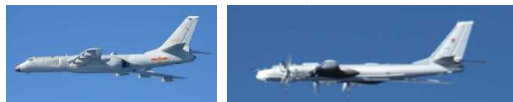
### 【航空戦力】

- 2019年以降、ロシアとの爆撃機による共同飛行を7度実施。

(これまでの共同飛行実績)

- ①19年07月 ②20年12月 ③21年11月
- ④22年05月 ⑤22年11月 ⑥23年06月 ⑦23年12月

- いずれも日本海を飛行。中国機がロシア領空を通過して直接日本海に進出する例も



中国のH-6爆撃機とロシアのTu-95MS爆撃機

### 【海上戦力】

- 2013年以降、中露共同演習「海上協力」が日本海においても定期的に実施。
- 2021年の「海上協力」後には初の中露共同航行を実施
- 2022年9月、ロシア軍の大規模演習「ヴォストーク2022」に中国艦艇が初参加。その後、2回目となる共同航行を実施
- 2023年7月、中国軍の演習「北部・連合2023」にロシア軍が参加。その後、中露艦艇は3回目となる共同航行を実施

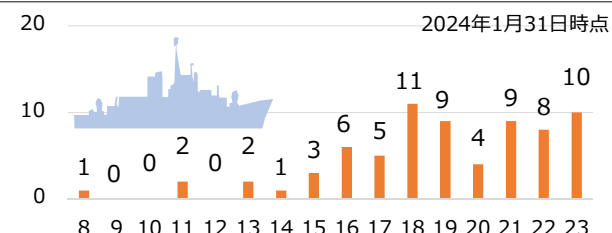


ロシア軍艦艇(左)と中国軍艦艇(右)

## 対馬海峡通過

### 【海上戦力】

従来から訓練などの機会<sup>①</sup>で日本海に進出



### 【航空戦力】

2016年1月に初めて対馬海峡通過を確認して以降、日本海での活動が活発化

